

博物館に寄せられた注目すべき昆虫の記録（4）

碓 井 徹

今回は、この10年ほどの間に県内での分布が急速に拡大したチョウであるムラサキツバメ（シジミチョウ科）が電車内で採集された事例と、長瀨町で東南アジア原産のクワガタムシが採集された記録の2つを紹介します。

ムラサキツバメの電車による分布拡大？

2010年8月23日15時ころ、東武東上線寄居発小川町行きの電車内にてムラサキツバメのオス1頭を採集した。

著者（投稿者）は2001年8月16日に川越市にて、同種メス1頭を採集し当時の自然史博物館に報告し、記録してもらった。当時は、埼玉県での採集記録は比較的珍しかったが、近年はかなり増えているとのことで、普通に見られる種の仲間入りをしているらしい。食樹のマテバシイが西日本から移植されそれに付いてきた。暖冬化による北進説。両者がプラスされて、急激に分布域を広げているという説などがあるようだ。

今回はたまたま、電車の中での採集でオスだったが、もし、メスならば遠距離移動して産卵することもありえるだろう。ある種の危険な病気を持った蚊が飛行機で運ばれるという危険性を耳にしたことがあるが、チョウも乗り物によって運ばれ分布域を広げる可能性が考えられ興味深い。

（投稿者 田端 昭彦 県立豊岡高等学校勤務）

※この報告は田端氏よりご投稿いただいた原稿をほぼそのまま掲載しました。

長瀨町で採集された外国産クワガタ

2010年の夏に、当館近くの『月の石もみじ公園』で、明らかに外国産とわかるオスの大型のクワガタムシが生きたまま捕らえられました。

発見者は皆野町在住の宮前典子さんと、発見後にすぐに博物館に持ち込まれましたが、宮前さんのお孫さんが飼育したい、ということで『死んだら博物館に寄贈して下さい』とお願いしてお持ち帰りいただきました。

その後、この個体は寄居町在住の宮前大志さん・和志くん親子によって飼育されていましたが、同年12月中旬に死亡したため博物館に寄贈されました（写真の個体）。

いただいた個体を、大顎の形態を中心に外部形態を精査した結果、これはインドネシアのスマトラ島を原産地とするアルキデスヒラタクワガタ（*Dorcus alcides*）であることが判明しました。

この個体が長瀨町にいた由来は不明ですが、おそらく、飼育していた個体が逃げ出したのか、あるいは飼育個体を放虫したものが、偶然に発見されたものと思われます。

近年、各地で報告が相次いでいる外来種のクワガタムシの野外での採集例のひとつとして記録しておきます。

末筆ながら、本個体をご寄贈くださった宮前様に感謝申し上げます。

アルキデスヒラタクワガタ

Dorcus alcides 1♂ 体長67mm

採集地 埼玉県秩父郡長瀨町長瀨

採集日 2010年8月18日

採集者 宮前典子

捕獲後は寄居町内で飼育され、同年12月12日に死亡。博物館へ寄贈されました。



長瀨町で採集されたアルキデスヒラタクワガタ

（うすい とおる 担当課長）